

IPネットワーク設備委員会における主な意見

令和2年8月31日
IPネットワーク設備委員会
事務局

報告骨子

IPネットワーク設備委員会における意見

(2)電气的特性及び信号方式について

- ワイヤレス固定電話用設備について、アナログ電話に課している技術基準のうち、メタルアクセス網の電气的特性や信号方式に係る技術基準は不要。
- 停電時においても利用が可能であったアナログ電話の代替としてのワイヤレス固定電話について、電話端末に対する通信用電源の供給の義務の要不要や供給の手法に関して、作業班において引き続き検討が必要。

- ワイヤレス固定電話において、UNIの位置をターミナルアダプタの下部(アナログ有線側)とするのであれば、電气的特性や信号方式に係る技術基準が利用者の端末とのインターフェースとして全て不要であるのかどうか、再度検討いただきたい。(OAB-J IP電話においては、ルータ上部にUNIがあるので、条件が異なる。)
- ユニバーサルサービス制度の在り方答申との整合でいうと、オプション扱いでも良いのではないかと。いわゆるモバイルバッテリーが出回っているので、汎用性の高いバッテリーのインターフェースがあれば十分ではないか。
- ユニバーサルサービスとしてアナログ電話の代替として入れるのであれば、例えば2時間のバッテリーを入れるという規定は必要かもしれない。一方で、ターミナルアダプタに電源を取る対策がされていて、利用者努力で持ちこたえられるのであれば、電源供給は必要とは限らない。
- アナログ電話の規定ができた頃と比べると、電源の状態は格段に良くなっている。非常時には通信に限らず、各家庭等での電力マネジメントは別途考えるべきではないか。

報告骨子	IPネットワーク設備委員会における意見
(3)基本機能について	
<ul style="list-style-type: none"> ワイヤレス固定電話用設備について、他の電話用設備に課されている基本機能と同等の基本機能を具備することが適当。また、ファクシミリによる送受信が正常に行えることを義務付けすることが適当。 他方、ファクシミリの提供にあたっては、従来のファクシミリの機能とワイヤレス固定電話におけるファクシミリの機能の差分について、加入者の理解の形成に向け十分な説明を行うことが適当。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファクシミリによる送受信を義務付けすることによる技術的な影響を懸念。 ・サービスとして提供はするという議論と義務付けの議論は分けて考えることも一案ではないか。 ・利用者がファクシミリを行う際に、その送信に時間がかかり、その間緊急通報できないのは問題ではないか。ファクシミリによる送受信を義務付けるのであれば、送信をキャンセルして緊急通報できる機能も入れる必要ではないか。 ・聴覚障害者の通信手段として、ファクシミリ以外にもテキストメッセージ、OCR機能、スマートフォン等、便利な機能はある。古い技術をなくしていくことを議論しても良いのではないか。

報告骨子

IPネットワーク設備委員会における意見

(4) 音声伝送に係る通信品質について

- 代表的な接続形態は、お客様数等に鑑みて、ワイヤレス固定電話と光IP電話との接続になることが想定される一方で、実際にワイヤレス固定電話が導入される離島等では、ワイヤレス固定電話同士の通話が多くなることが想定されるが、いずれにしても最低限の品質を保証することが適当。
- 音声の品質は、エンド・ツー・エンドの測定で測定することで、パケット損失や揺らぎ以外の要素も含め、より正確に捉えることが可能であることから、ワイヤレス固定電話用設備の音声品質については、エンド・ツー・エンドで遅延及びPOLQAにより評価することが適当。
- 具体的な品質規定モデル及び品質基準について、どのように考えるか引き続き検討が必要。

- 050のIP電話で規定したクラスC (ITU基準) とは、実用上差し支えない最低限の品質として求められているものであり、その品質を下回ることは避けるべきではないか。ただ「常時全ての通信が」とまでは求めないなどの考えもあると思われる。
- 通信方式よりも音声としての評価、例えばMOSの評価値があれば良いのではないか。ユーザサイドとしては音がわかることが重要。

報告骨子

IPネットワーク設備委員会における意見

(5)安定品質について

- ユニバーサルサービスの安定的な提供の観点から、現在のアナログ電話に可能な限り近い安定性を確保することを義務付けることが適当。
- ワイヤレス固定電話用設備は、安定品質の規定があるIP電話と、安定品質の規定はない携帯電話から構成されており、無線区間を含めたエンド・ツー・エンドで対応することが適当。
- 具体的には、①音声伝送に係るパケットを優先的に制御する措置又は、②音声伝送に係る帯域とデータ伝送に係る帯域を分離する措置を講ずることが適当。
- さらに、ワイヤレス固定電話用設備特有の措置として、無線区間を含めた安定性の確保のため、ネットワーク全体を監視して電波状況を把握するようにし、定期的にその品質を確認することが適当。
- 電波状況が悪くなるなどにより、各品質が低下した場合は適切な措置を講じることが必要。

- ベストエフォート0AB-J IP電話の考え方に似ているものを感じる。定期的に監視をしておけば電波状況の悪化を把握できるのではないかと思う。
- 安定品質の確保方法の1つとして、複数のSIMを挿入することも議論していただきたい。
- ユニバーサルサービスであるため、天候不順(風・雨・大雪)を含めて緊急時に電話が通じることが重要ではないか。
- 今のアナログ電話も飛来物で線が切れてしまえば通じないので、定期的な監視で把握し対策するという安定性の確保もありえるのではないか。

報告骨子	IPネットワーク設備委員会における意見
<ul style="list-style-type: none"> ワイヤレス固定電話全般について 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来的にユニバーサルサービスも議論する必要がある、コンパクトシティとしてこのエリアの外だと提供しないものがある、などの考えがある。コストとベネフィットの重い議論だが、方向性としては今回のワイヤレス固定電話で、あまりにも厳しい規定は避けた方が良いのではないかと。 ・古い技術を保持する印象であるので、未来志向での議論、例えばワイヤレス固定電話ならでは新しい機器の接続ができて良いのではないかと。